2014ＪＲ春闘　ベア獲得の成果を踏まえて（見解）

統一ベア 3,500 円を掲げて闘った 2014ＪＲ春闘は３月 12～14 日、第一先行組合のＪＲ５単組が交渉のヤマ場を迎え、ＪＲ東労組は定昇に加え、６年ぶりとなる平均 1,635 円のベアと夏季手当 2.8 カ月分プラス１万円を勝ち取った。また、ＪＲ東海労はベア 1,500 円と夏季手当 2.95 ヵ月分、ＪＲ西労はベア 500 円と年間臨給 5.38 カ月分の回答に、いずれも再申し入れによる交渉をおこない、ＪＲ西労は 15 日に妥結した。

本州３社では過去最高益が見込まれるなど業績好調な中でも会社側は、先行きが楽観視できないなどの理由を並べ、回答を抑え込んできた。また、先行妥結したＪＣ系大手産別で世代や成績によるベアの格差配分の流れがつくられる中で、ＪＲ東労組はその流れを汲む会社に対峙し、連日深夜に及ぶ交渉でベア一律配分を獲得した。2014ＪＲ春闘の第一のヤマ場において、このようにベア回答を引き出したことは、大きな成果である。

一方で、契約社員の正社員化や処遇改善を目指したが、定昇相当分や精勤手当などで改善を勝ち取ったものの、非正規労働の解消に至らなかった。

他方、ＪＲ北海道労組は 14 日、およびＪＲ貨物労組は 17 日にベアゼロでの妥結を余儀なくされた。経営側の壁は厚かったものの、全員参加の春闘で合意形成を図りつつ粘り強い交渉で、シニア雇用者や高齢者の処遇改善と職場環境改善要求の前進を図り、妥結に至った。

今春闘は、デフレ脱却を掲げ景気回復をめざす安倍内閣の経団連・経営側へのテコ入で「官製春闘」とも揶揄され、ベア実施の追い風として注目されていた。しかし消費増税による負担増や、労働者保護ルール改悪が準備されるなど、先行きには暗雲が立ち込めていた。

そのような中で我々は、賃上げへの政治的介入を一蹴し、闘いの土俵はあくまでも労使の交渉事として臨んできた。また非正規雇用では、その割合が過去最高の 36%・1,906 万人からさらに増え続ける中にあって、非正規雇用の処遇改善と解消をめざしてきた。そして統一要求にこだわり、労働者全体の利益を求め、ベア獲得により闘いの道を切り拓こうと全組合員で交渉を後押しした。2014ＪＲ春闘を全組合員で創りだしたことで、ベア獲得に結実したと確信する。

今後、アベノミクスに沸いた経済が、賃金抑え込みの中で好循環に転じるとは考え難い。ＪＲ総連は、労働者の格差拡大を跳ね除け、ベア獲得の成果を第二先行組合の鉄研労やシステム労、そしてテレコム労組や聚楽労組、さらに労連の賃金改善へと波及を図りながら、すべての労働者の成果へと結び付けていく。

2014ＪＲ春闘を先行して闘った各単組・全組合員に感謝を申し上げるとともに、すべての労働者の賃金・労働条件の向上に向け、今後とも奮闘することを決意し、見解とする。

2013 年３月 18 日

ＪＲ総連（全日本鉄道労働組合総連合会）